

長期集団宿泊活動の手引

【実践編】

Vol. 3

子どもの豊かな心を育てる

「山・海・島」
体験活動

平成 31 年 3 月

広島県教育委員会

長期集団宿泊活動の手引【実践編】Vol.3

目次

I 知識

(1) 自然・環境に関する知識

- 尾道市立重井小学校 2

(2) 心身の健康と安全な生活に関する知識

- 廿日市市立宮島小・中学校 6

II スキル

(1) 振り返る力

- 庄原市立庄原小学校 12

III 意欲・態度

(1) 協調性・柔軟性

- 尾道市立美木原小学校 18

IV 価値観・倫理観

(1) 自らへの自信

- 大竹市立大竹小学校 24

(2) 郷土を愛する心

- 江田島市立江田島小学校 28

I 知識

自然・環境に関する知識

尾道市立重井小学校 校長：深見 直彦 【民泊】北広島町

持続可能な社会の理解を深める体験活動

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

重井小学校の「山・海・島」体験活動では、町全体で自然との共生を図っている北広島町の人々と交流したり、体験したりすることを通して、将来のために、環境を大切に、資源を使い切ってしまう社会の実現に向けた持続可能な社会づくりに必要な知識を学び、自分たちの地域で活かすことを考える児童になってほしいと考えています。

重井小学校では、全校でふるさとに誇りをもつ取組を重視し、重井地域の良さを見つけ自慢ができるようになってほしいと考えていますが、自分の地域のことを本当に理解するには、他の地域と自分の地域の様子とを比較させるなど、外から自分の地域を見ることが必要だと考えています。そこで、平成26年度から、北広島町での民泊を行い、重井地域と北広島町との違いや共通点について学ぶことができるようにしています。

2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 目標

町全体で自然との共生を図っている北広島町の人々と交流したり、体験したりすることを通して、持続可能な社会づくりに必要な知識を学び、自分たちの地域で活かせることを考える。

(2) 3泊4日の主な内容

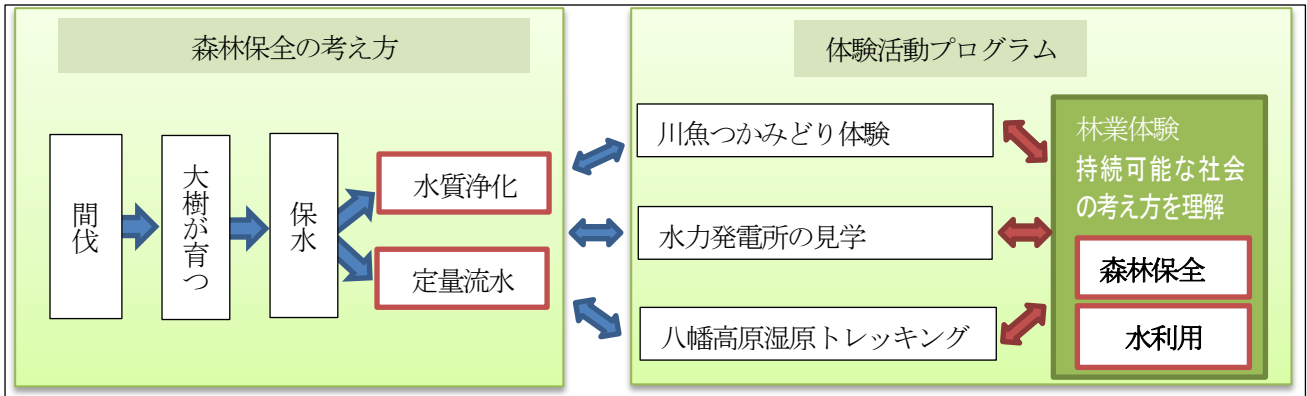
	午前	午後	夜
1日目	北広島町への移動	対面式 田舎暮らし体験	神楽鑑賞
2日目	大暮養魚場での川魚つかみどり体験	芸北川小田小水力発電所 大朝のメガソーラーの見学	田舎暮らし体験
3日目	八幡高原ガイドによる湿原トレッキング	林業と環境保全の関係について学ぶ 林業・間伐体験	田舎暮らし体験
4日目	民泊家庭で、感謝の気持ちを届ける奉仕活動 考え方をまとめる会	各民泊家庭への感謝を伝える出発式	

3 体験活動の指導の工夫

指導の工夫として、次の3つを行いました。

- ①養魚場での川魚つかみどり体験・水力発電所の見学・湿原トレッキングの3つの体験活動をすべて持続可能な社会の理解と結びつける。
- ②水とそれを生み出す森林とが、3つの体験活動のベースになっていることに気付かせる林業体験をプログラムの最後に設定する。
- ③3泊4日の最後に、すべての体験を関連付けて説明をさせる。

重井小学校の「山・海・島」体験活動の考え方



3つの体験を持続可能な社会の理解と結びつける	
1	<p>大暮養魚場での川魚つかみどり体験</p> <p>○山水を活用した水質の良い水である。 ○地形を活用して水を引き込んでいる。</p> <p>児童の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林から流れてくるきれいな冷たい水を使っている。 ・一年中水温が変わらないんだ。 ・山水は、なくなることがない。 
2	<p>水力発電所の見学</p> <p>○安定した水量が必要である。 ○水の勢いを活用することで、モーターが回り発電をしている。 ○地形が有効活用されて、水の落差を使っている。</p> <p>児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北広島町では、たくさんの水力発電所がある。 ・大量の山水を上手く使っている。 ・一定の量でたえず流れてくるから、発電ができる。 ・山の落差を使うためには、木を切ることも必要だ。 
3	<p>八幡高原湿原トレッキング</p> <p>○きれいな自然を守ろうとしている。 ○湿原は、いくつもの条件が整わないと維持できない。</p> <p>児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな景色で、気持ちいいなあ。 ・いろんな生き物がいるんだ。 



林業体験…3つの体験と持続可能な社会の考え方とをつなぎ合わせる体験

林業体験

4つの体験活動を行い、最後に林業体験を行うことで、4つの体験活動が持続可能な社会とつながっていることに気付かせることができます。

児童の感想

- ・きれいな水がたくさん、ずっと流れているということが、北広島町での体験に共通しているなあと感じました。
- ・「森林の手入れをしないと、森が荒れ放題になり、材木に使えるものにはならないんだ。」という言葉が印象に残りました。間伐をして日当たりをよくすることによって、大きな樹木に育っていること、その樹木が多く土を抱えることで一定の水量を保っていることが分かりました。
- ・森林は自然の状態なのかと思っていましたが、手入れをしていることが分かりました。湿原も自然のままではなくて、北広島町の皆さんが大切にしようと手入れをしておられました。環境は、人が守っていかないといけないんだなあと感じました。
- ・民泊では、これまで経験をしたことがなかった薪割りをしました。薪はお風呂をわかしたり、バーベキューをしたりしたことは、環境とエネルギーを大切にすることにつながっていることに気付きました。



国語科との関連

体験活動後、11月に国語教科書の巻末教材「森林のおくりもの（富山和子）」で、体験活動で得た知識と森林の働きについての関連付けを行いました。

単元冒頭で『森林のおくりもの』と聞いて、何を思い浮かべるか」と児童に聞けると、児童は、「机や椅子、えんぴつ」、「紙」など物的なものについての返答が多くを占めました。教材を読み、森林は物的な恵みだけではなく、機能の面でも人々の暮らしを豊かにしていることを知り、またその恩恵が受けられるのは、木を植え継ぎ、守り育ててきてくれた先祖のおかげであるということが分かりました。

学習を進めながら北広島町での体験と教材文で学んだ知識とを児童が関連付けることができいき、児童の中で「林業＝木を切る仕事」のみであったイメージを転換させることができました。

川の水はなぜなくなるらないのか
森林が雨を地下へ送り、下流へはき出してくれるから。

森林の土はなぜ雨に流されないのか
木の根が土や岩石をかかえ、しゃ面にはり付けているから。

平野のお米はなぜ毎年実るのか
森林が土と養分を分けてくれたから。

森林はだれのおくりものなのか
大昔の先祖たちからのかけがえのないおくりもの。

緑豊かな国土に生まれたことに感謝すべき。

事実と意見の関係を押さえ文章構成をプレゼンテーションに表す学習

社会科との関連

「わたしたちの生活と環境」では、水を貯える機能、災害から暮らしを守る機能や田や土に養分を送る機能について学習をしました。体験活動の内容と関連付けて考えることができ、自発的に自分の考えを話す児童が多くいました。特に、天然林と人工林の違いについては、林業体験や国語科での学習と関連付けて考えることができました。

全校発表

北広島町での体験と関連させて、森林からのさらなる恩恵について考え、森林のありがたさについて全校に発表しました。



4 取組による成果

(1) 持続可能な社会づくりの考え方を理解し、資源や環境を大切にすることを実践しようとする意識が高まった。

3泊4日を通して、児童は、北広島町においては森林の保全と水を生み出す森林の関係が重要だということに気付きました。また、北広島町では、資源を活用したり環境を大切にしたりする考え方が、地域や各家庭で大切にされていることに気付きはじめました。

そこで学校では、電気や発電に興味・関心を持たせ、太陽電池やハンディECOライト(LED)を使った学習を展開し、さらに生活と電気の密接な関係について考えさせるようにしました。

(児童の感想)

- ・ハンディエコライトなどを使って、自分で電気が作れたことにびっくりしました。そのひみつについて自分で調べてみたり、家でも発電をしてみたいです。
- ・電気はモーターを動かすだけでなく、モーターが動くことで電気ができることが分かりました。ほとんどの発電方法がモーターを動かすと電気ができること学びました。
- ・北広島町の水力発電所では、電力会社の方の話を聞いた時、モーターが動くことで電気ができるって言っていたよね。

(2) 国語科や社会科、持続可能な社会づくりと関連させた学習による児童の考えの深まり

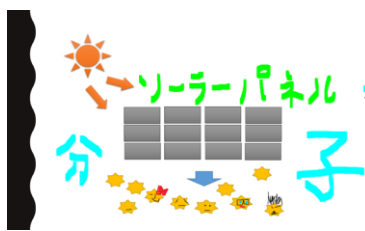
児童は、持続可能な社会について理解したり、その価値に気付くことは、なかなか難しいことです。そこで、事前学習や3泊4日の当日の関連する様々な学習を通じて、子供たちに持続可能な社会づくりについての考え方を示すようにしました。

(児童の感想)

- ・限りある資源を大事にしているのは、北広島町の大暮養魚場、水力発電所、メガソーラー、湿原トレッキングに共通していると思いました。
- ・北広島町で実際の水力発電の施設を見ると、予想していたよりも大きな施設でした。山を切り崩してあるので、環境にとってはよくないのではないかと考えたけど、話を聞くと、将来的には、エネルギーを考えていく上では、必要なんだと思うようになりました。

(社会科の学習での児童の考え)

- ・メガソーラー再生可能エネルギー関連施設では、モーター以外の発電もありました。
- ・ソーラー発電であれば、自然の資源を使わないで発電できることが分かりました。



ソーラーパネルで、電気を作り出すことができます。



(3) 重井地域の良さを自慢できる児童の増加

これらの学習を通じて、学校評価に関する児童のアンケートでは95%を超える児童が、重井地域の良さを自慢できるようになってきています。北広島町に行き、北広島町の良さを感じた児童は、これまでの重井での学習が、実は重井の良さであることが分かり、重井地域のために自分たちができることを考えるようになりました。

(児童の考え)

- わたしたちが、重井特産の「わけぎ」を自分たちで育て、販売までしている取組も、地産地消の考え方で、持続可能な社会づくりにつながる。4年生の時から学習している「除虫菊」も、重井が一大生産地だったことを学習した。重井の地域にもいいところがあるんだ。
- 重井の将来のためにも、自然やその環境を大切にし、限りある資源を使い切ってしまうまいにしたい。自分たちにできることをもっと考えたい。

心身の健康と安全な生活に関する知識

廿日市市立宮島小・中学校 校長：石角 剛【施設泊】アルカディア・ビレッジ

食育の実践の場としての朝食作りを取り入れた体験活動

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

本校では、異学年集団での生活や行動を通して豊かな人間関係を築いたり、自然体験を通して豊かな感性や自然を愛護しようとする心情や態度を高めたりするために、5年生と7年生が合同で体験活動を実施しています。

「山・海・島」体験活動では、自分自身の健康を管理することができる力の育成を目指した指導ができると考え、学校で取り組んでいる食育と関連させた指導をしています。特に、学校では行動の変容につながりにくい「朝食」についての指導を繰り返し行うことができるため、本校の課題の一つである「朝食の内容が、主食、主菜、副菜の組み合わせでないものや栄養バランスの整っていない」ことへの解決に向けた指導を行っています。

朝食作りの取組を通じて、一人一人が正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身に付け、児童生徒自らが、自分自身の健康管理ができる力を身に付けさせたいと考えています。

本事例集では、本校の3泊4日の体験活動における朝食作りの取組を中心に紹介します。

2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 目標

- ① 集団生活、集団行動を通して、主体性、協調性、責任感、豊かな人間関係を築く力を養う。
- ② 自然体験を通して、自然に親しみ、自然の中で活動する喜びを味わうとともに、平素の生活では得られない経験や活動を通して、豊かな感性や自然を愛護しようとする心情や態度を高める。
- ③ 異学年集団での生活や活動を通して、友情・協同・奉仕・感謝・人間尊重の心を培い、望ましい人間関係を深める。
- ④ 主食、主菜、副菜の組み合わせについて理解し、自分の健康を考えてバランスよく食事を食べることができる。
- ⑤ 望ましい食習慣を実践する「食の力」を育てるために、食事作りの体験活動を通して、バランスのとれた望ましい食事に必要な条件を理解し、調理の技術を習得する。

(2) 3泊4日の主な内容

	午前	午後	夜
1日目		入所式・身辺整理 朝食準備	スタンツ練習 ふり返り
2日目	朝のつどい 朝食作り 火起こし体験 野外炊飯とカレー作り	水生生物観察 トーチ作り タベのつどい 朝食準備	家族への手紙を書く 星空観察 ふり返り
3日目	朝のつどい 朝食作り 極楽寺山登山	昼食 フリータイム・スタンツ練習 タベのつどい	キャンプファイヤー スタンツ ふり返り
4日目	朝のつどい 荷物整理・掃除 ボランティア清掃 退所式		

3 体験活動の指導の工夫

(1) 事前の指導の工夫

月	関連教科等	学習内容	指導のポイント
5	特別活動	・バランスよく食べよう 主食，主菜，副菜	主食，主菜，副菜の役割を理解させる。
6	家庭科	・おいしいね毎日の食事 ご飯とみそ汁をつくる調理実習	基礎的な調理技術の習得させる。 安全な調理法の理解をさせる。
7	家庭科	・おいしいね毎日の食事 五大栄養素	食材と五大栄養素のかかわりについて理解させる。

(2) 体験活動当日の指導の工夫

○3泊4日の中で，3回の調理実習を位置づける（朝食2回，昼食1回）。

○その際に，次の3つの視点を踏まえて食事を考える。

視点：①栄養素と食材・主食，主菜，副菜の役割について理解させる

- ・五大栄養素の役割について理解させる
- ・食材と栄養素のかかわりについて理解させる

②自分の健康

- ・自分の健康を考え，必要な栄養素を考えさせる

③調理技術

○この3つの視点で，食事を考えたり，調理したりしながら繰り返すことで，健康的な体づくりをめざし，食事を通して自分で自分を管理することができる児童生徒が育つ。

日程	食事作りの内容	指導のポイント
1 日目	夕 2日目の朝食準備	・次の日の食材の確認，食器や器具類の準備をし，朝食が短時間で効率よく調理できるように考えさせる。
2 日目	朝 ごはん・みそ汁 いり卵・生野菜 味付けのり・牛乳	・事前に考えた，体を目覚めさせるためのメニューに必要な食材を用意し，調理する。 ・野菜の量を意識したメニューを取り入れる。 ・家庭科の時間で学んだ知識を基に，栄養素が最大限摂取できるように調理する。 ・包丁やガスコンロを正しく使い，安全に調理する。 ・効率のよい調理時間を工夫する。
	昼 飯ごうすいさん ごはん ポークカレー しゃかしゃかサラダ	・食材と栄養素のかかわりについて理解させる ・必要な栄養素を考えさせる ・効率のよい薪への着火方法を考え，実行する。 ・火の扱いに注意しながら，安全に調理する。 ・協力して効率よく・安全に調理することができる。
	夕 3日目の朝食準備	・次の日の食材の確認，食器や器具類の準備をし，朝食が短時間で効率よく調理できるように考えさせる。
3 日目	朝 おむすび・ゆで卵 冷やっこ・生野菜 青菜のおひたし 牛乳	・疲れが蓄積してきているので，疲労回復の栄養素やメニューに必要な食材を用意し，調理する。 ・青菜を入れて，緑黄色野菜を効率よくとるためのメニューを取り入れる。 ・家庭科の時間で学んだ知識を基に，栄養素が最大限摂取できるように調理する。 ・包丁やガスコンロを正しく使い，安全に調理する。 ・効率のよい調理時間を工夫する。



野菜を洗う。



野菜を切る。



みそ汁を作る。



もりつける。



○「主食、主菜、副菜がそろった朝食」の例となるような献立としている。

主食：ごはん

主菜：いり卵

副菜：生野菜

みそ汁

牛乳・味付け海苔・お茶

※家庭科の学習内容を考慮する。

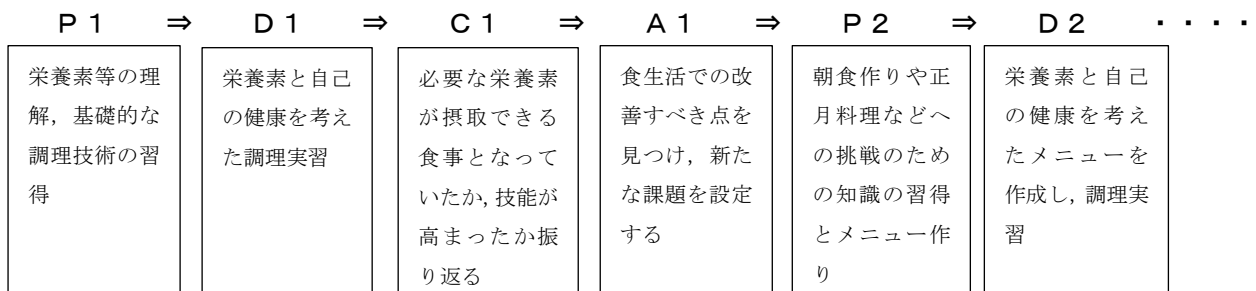
※みそ汁にも野菜を入れて、一食に必要な野菜の量を意識させる。

(3) 事後の指導の工夫

体験活動によって高まった、健康のための食事作りへの関心と意欲を継続、定着させる指導場面の設定している。

	親子料理教室	「料理の達人めざして ホップステップジャンプ!!!」
活動内容	・長期休業中に保護者と児童生徒と一緒に調理を行い、食事会を開催する。	・児童生徒の調理技術の向上に対して認定書を発行し、表彰する。
ねらい	・健康的ための食事作りへの関心と意欲を継続、定着させる。	・調理技術を向上させようとする意欲を高める。
指導のポイントや工夫	・次の3つの視点で、メニューや調理方法を考えさせる。 ①栄養素と食材 ②自分や家族の健康 ③調理技術 ・家族のことを想定して野菜摂取や減塩が必要であることを理解させる。	・長期休業中を中心に、児童生徒が調理できる機会を積極的に提供するように保護者と連携する。

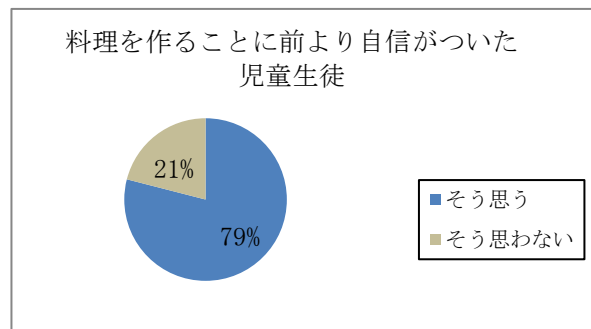
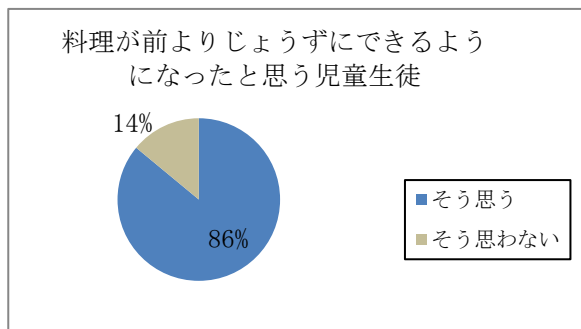
(4) 年間の指導の工夫



4 取組による成果

(1) 学校が設定した食育に関する児童生徒評価の高まり

○児童生徒の料理作りに対する自信が増した。

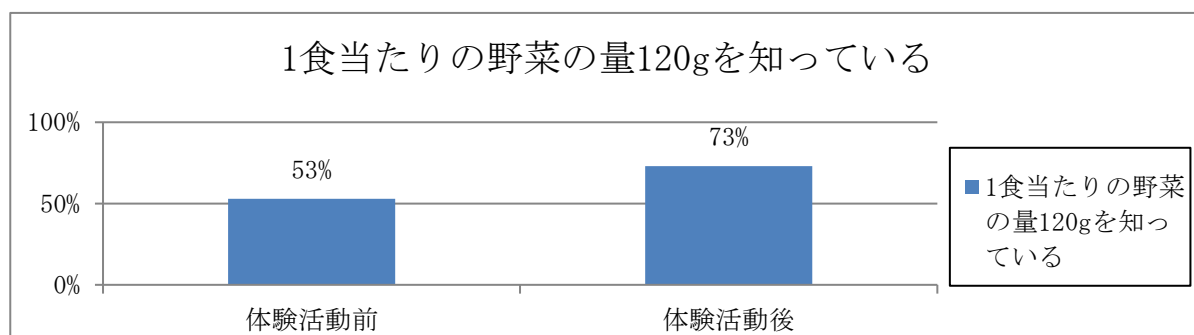


○児童生徒の調理技術が向上した。

- ・調理技術のレベル（学園で設定している級・段位）が上がった児童生徒 73%

○児童生徒の野菜の摂取量に対する意識が高まった。

- ・1食当たりの野菜の量 120g を知っている児童生徒が 53%から 73%に増えた。



(2) 体験活動後の児童生徒の感想

- みんなで協力して作ることができました。5年生と7年生の仲が深まったように思います。
- みんなで考えて行動し、協力しました。自分をもっと何をすればよいのかを考えることができました。
- 家でもカレー作りをまかされて、作れるようになりました。
- 料理がたくさん作れるようになりました。

(3) 体験活動後の保護者の感想

- 配膳の手伝いを以前よりもよくしてくれるようになったと思います。
- 家の掃除や料理の仕方が分かるようになりました。
- 家庭でも率先して手伝ってくれています。

5 今後に向けて

本校では小中一貫教育校として9年間を見通した食育推進計画を作成し、調理技術の向上を重点目標に、調理体験を重視した食育の取組を実践しています。この「山・海・島」体験活動における「食事作り」もその一環であり、5年生と7年生の異学年が協力して食事作りをする意義は大きいと実感しています。ただ、調理実習は利用する施設の設備事情に大きく左右されることがあり、今後、この取組を継続するうえでの課題ととらえています。

Ⅱ スキル

振り返る力

庄原市立庄原小学校 校長：西田 早苗【施設泊】国立三瓶青少年交流の家

子供たちが高めたい資質・能力を意識して取り組む体験活動

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

庄原小学校では、「長期集団宿泊活動【実践編】Vol.2」で示したように、自ら課題を見つけ、主体的に学び、仲間と協働して、よりよく課題を解決する資質・能力を高め、児童が様々な課題に主体的に、果敢に挑戦する学びへの自信を高めさせたいと考えました。このため、「山・海・島」体験活動はこれまで授業の中で学んだ様々な資質・能力を総動員し、児童自身が主体的に課題解決を図る場として設定することを考えています。

このため、他教科と「山・海・島」体験活動を関連付けたカリキュラムマップを作成し学校の取組を体系化させました。また、児童が主体的に課題解決をするためには児童自身が教育活動の目標を立て、その目標に準拠した「学びの姿ルーブリック」が効果的であると考え、日常的に学校全体で取り組んでいます。この目標に準拠したルーブリックを「山・海・島」体験活動にも活用し児童が主体的に課題解決に取り組むことができるようにしてきました。

5つの力	レベル1	レベル2	レベル3
活用できる知識・技能	・基礎となる知識・技能を身につける ・他教科で学んだことを「ゆめかな」で使う	・「ゆめかな」で学んだことを他教科で使う ・他教科で学んだことを「ゆめかな」で使う	・いつでもどこでも必要な時に必要な知識を使う ・学んだことを使いやすいように整理する ・活用できる形にかえる
課題を見つけ追究する力	・疑問(?)をもつ・見つける ・予想をもとに追究していく	・解決の見通しをもつ ・自分から進んで調べる ・調べたことを見直す ・まちがいを生かして調べ直す	・さらに新しい課題を見つける ・結果に納得するまで調べる
共に学びをつなげる力	・相手の発言をよく聞く ・ペアワーク・グループワークを進んでする ・協力する	・友達の考えにつけ加える ・理由をはっきりさせて言う ・互いの考えを認め合う ・自分の考えをもつ	・考えをまとめる ・今の考えより、さらにより考えになるよう話し合う
目標をもつてやりぬく力	・目標を立てる	・1つ1つやり切る ・最後までやり切る ・どうやったら達成できるか見通しをもつ	・目標がどこまで達成できているか、自分でふり返る ・新しい目標をたてる
学びへの自信	・学びのふり返りを書く	・苦手なこともチャレンジする ・自分の得意・苦手が分かり努力する ・学びを次に生かす	・新しいものを創造する ・自分の成長が分かる

このことで、子供たちは、登山や野外炊飯などで、グループで協力して共に学びをつなげるような挑戦をする中で、学びへの自信に気付き、自分には課題に挑戦して解決できる力があると自信を高めていきました。しかし、実生活において身についた力をもっと活用できる場面で活用がとどまっているような状況があり、もっと児童を主体的にすること、実生活において活用させるには、複数の力が複合的に関係付いていることが課題であると考えました。

そこで今年度は、昨年度の改善を図り次の3点を新たに行うこととしました。

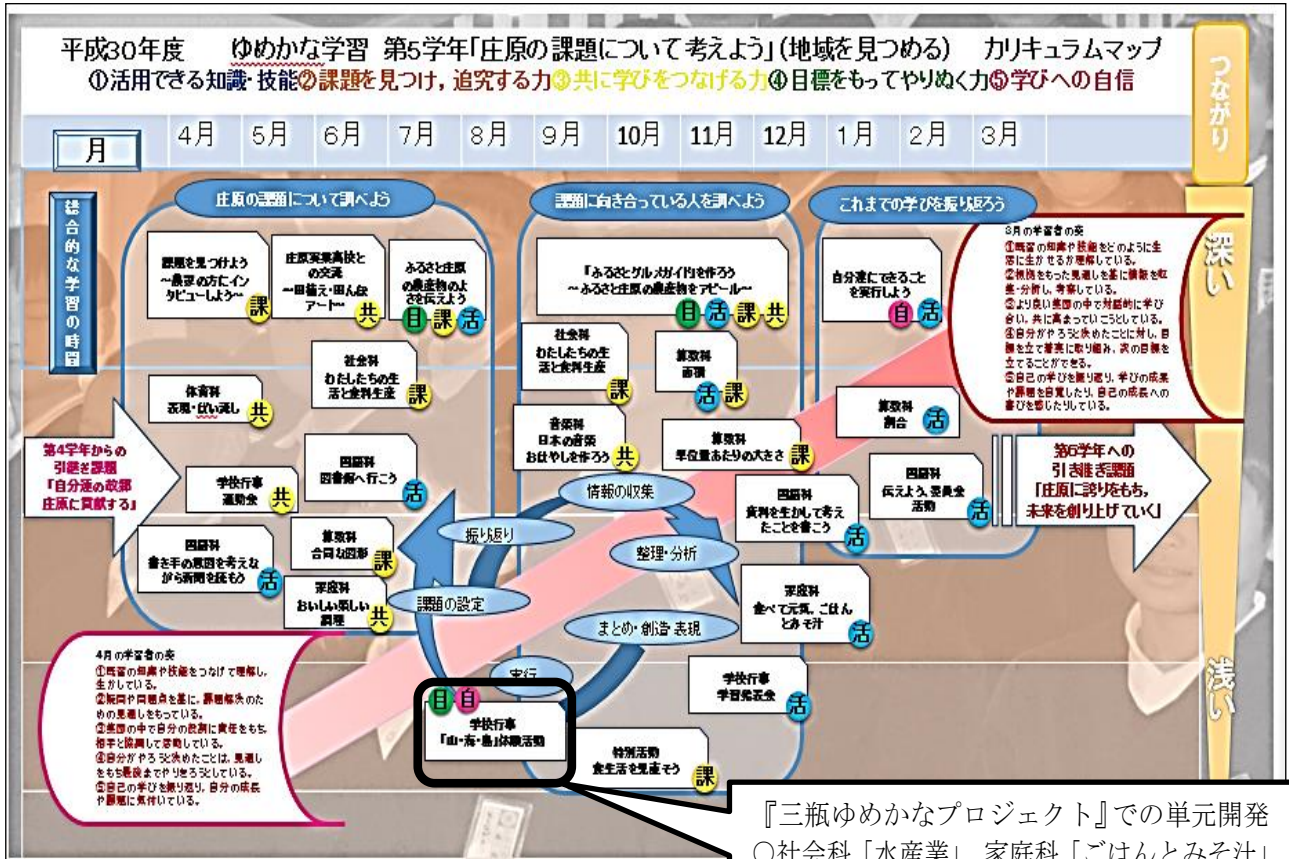
- カリキュラムマップを基に児童自身に活動の意義を考えたり、どのような力を付けるのかを明確にさせて、体験活動に取り組ませるよう、資質・能力と体験活動との関連を考えることができるよう手立てを打つ。
- 自分たちで体験活動の中で、これらの資質・能力を総動員し、どのように挑戦できたかを目標に準拠して活動直後ごとに振り返らせる小さな振り返りと、「1日を通して」、「3日間を通して」という総括的なふりかえりを組み合わせて行う。
- 体験活動で身に付けた資質・能力をさらに伸ばすための新たな目標設定をする。＝ルーブリックの作成

年間を通したカリキュラムマップ
○教科等の指導と体験活動の関連付け
・活動後の姿をイメージさせ、その姿になるために必要な力の具体を考えさせる。

「山・海・島」体験活動プログラム
「三瓶ゆめかなプロジェクト」
○体験活動で育成したい資質能力の明確化
・目指す学びの姿と、各活動で高めたい資質・能力との関係をイメージ図として作成させる。

事後
○体験活動で身についた資質能力をさらに高める
・複数の力が複合的に関係付いていることに気付かせる。

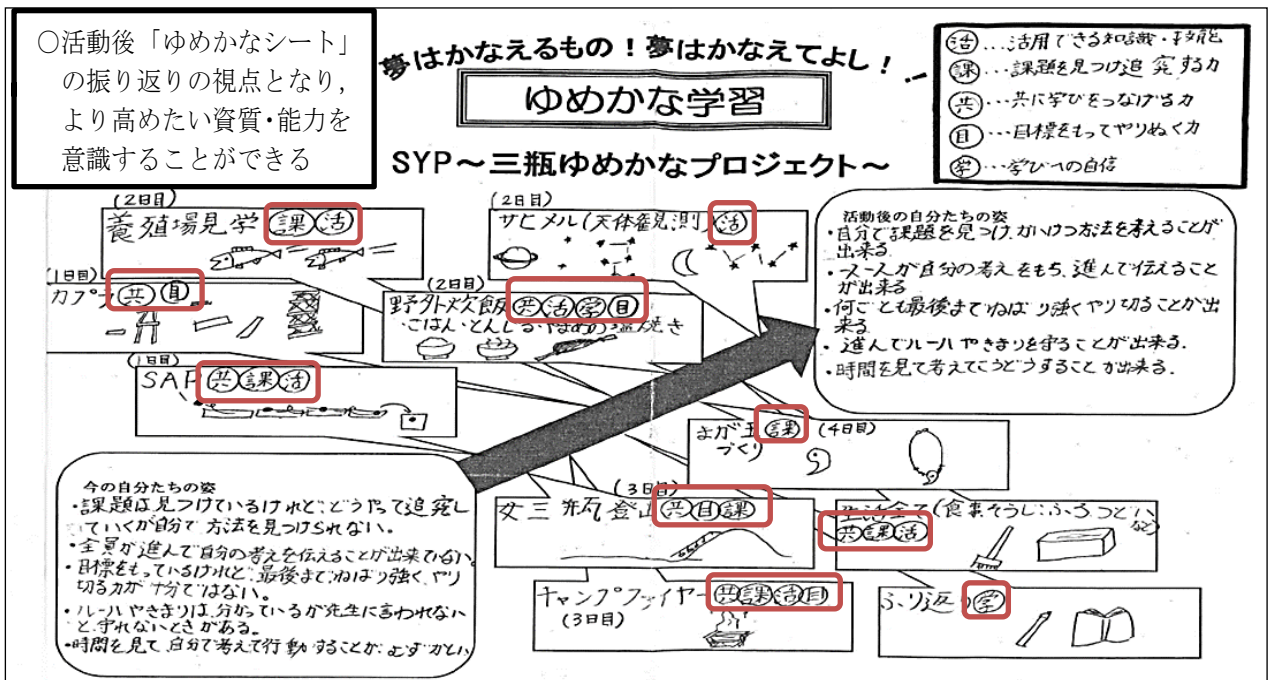
第5学年カリキュラムマップ



目指す学びの姿と、各活動で高めたい資質・能力との関係を示したイメージ図

『三瓶ゆめかなプロジェクト』での単元開発
○社会科「水産業」、家庭科「ごはんのみそ汁」の単元を1学期に配列し、学んだ知識・技能が活用できるようにする。

- ・児童一人一人が作成をして、その後、全員で共有をする。作成したイメージ図は、体験活動のしおりに掲載をし、児童はそれを見て、活動の振り返りができるようにしている。
- ・各活動の担当を決め、その活動で身に付けたい力を「学びの姿ルーブリック」を基にして書き入れ、一つの活動で、複数の力が関連付いていることに気付かせる。
- ・しおりに作成する時には、前年度に体験をしている6年生へのインタビューを行い、しおりに必要な情報を書き加えさせる。



2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 三瓶ゆめかな (SYP) プロジェクトの目標

- 課題を自分で見つけ、友達と話し合いながら解決する。
- 友達の考えを認め、よりよい活動になるよう学びを広げ深めていく。
- 目標をもってやりぬく。
- 自然のすばらしさを感じ取り、自然の中で進んで活動する。

(2) 3泊4日の主な内容

	午前	午後	夜
1日目	入所式	人間関係づくりSAP 施設内見学	カブラ 振り返り
2日目	養殖業体験・川魚つかみ取り	スタンプ練習 野外炊飯	振り返り 天体観測
3日目	家族への手紙 登山	スタンプ練習	キャンプファイヤー
4日目	勾玉づくり 振り返り	退所式	

3 体験活動の指導の工夫

	当日	「山・海・島」体験活動を生かした事後の取組
	振り返りの充実 (「ゆめかなシート」の活用)	体験活動での学びの自信の広がりと継続
ねらい	○「ゆめかなシート」をもとに、活動を振り返ることで自己評価力を高め、学びへの自信や新たな課題を設定する力を付ける。	○体験活動で得た学びへの自信を他教科や学校生活等につなげ、さらなる成長を目指す。
活動内容	○しおりをもとにした各活動で身に付けたい力の確認 ○「ゆめかなシート」をもとにした振り返り ○次の目標の設定	○「学びの姿ルーブリック」の見直し ○友達の頑張りやよいところの交流(発見カード) ○「山・海・島」体験活動実践発表会 ○国語科との関連を図ったポスターの作成 ○保護者・地域への発信
指導のポイントや工夫	○各活動の前に、担当児童がしおりをもとに、その活動で付けたい力の確認を行う。 ○「学びの姿ルーブリック」をしおりに印刷し、振り返りをする際の指標にさせる。 ○振り返りは目標が達成できた、できなかっただけではなく、なぜ達成できたのか、またはこうすればよかったなど、成長の過程が分かるように書かせ、途中過程を評価するようにする。 ○振り返りの時間を帯で設定し、体験と振り返りの一体化を図る。(今日の目標・振り返り・明日の目標・友達の頑張り)	○「学びの姿ルーブリック」の見直しを行い、今の自分の姿や新たな目標を設定させる。 ○振り返りで「ゆめかなシート」に書いた友達の頑張りや発見カードに書き、カード交換をしながらお互いの成長を評価させる。 ○「山・海・島」体験活動実践発表会に向け、「ゆめかなシート」に書いたそれぞれの振り返りの言葉を集めシナリオを作成し、伝えたいことを明確にして取り組ませる。場面毎にグループ分けをし、発表の工夫を考えさせたり、お互いの表現を評価させたりしながら主体的に活動させる。 ○庄原の農業と三瓶の養殖業など、体験活動で学んだことを整理し、国語科の学習と関連させてポスターを作成する。(実践発表会、学習発表会で掲示し学びを発信) ○体験活動での学びをお便りや、参観日に伝え、保護者からも評価してもらおう。また、学習発表会でも体験活動での学びを伝え、他学年や地域の方への発信もする。



4 取組による成果

(1) 児童の学びへの自信が深まることに関する児童の自己評価の高まり (ゆめかなシート)

課題を見つけ 追究する力	レベル3	今はスタンプのときに先生に助けをもらわず、ゆめかななどで習ってきたことを生かし、自分たちで考えることができています。
-----------------	------	--

「ゆめかな」などで習ってきたこととは…
「1学期に行った『農業活性化プロジェクト』で庄原の農業の課題について農家の方から聞き取りを行い、自分たちにできる取組を考え実践しました。『SYP』でも自分達で課題を設定し、グループで話し合いながら課題解決に向けて活動したことで、自分たちでスタンプなどの活動をやりきることができました。」

5年1組 学びの姿ルーブリック			
	レベル1	レベル2	レベル3
活用できる知識・技能	基礎となる知識・技能を身につける	ゆめかなで学んだことを他教科でつかう 他教科で学んだことをゆめかなで使う	いつでもどこでも必要な時に必要な知識を使う 学んだことを使いやすおに整理する 活用できる形にかえる
課題を見つけ追究する力	疑問(?)をもつ・見つける 予想どおしに追究していく	△解決の見通しをもつ △自分から進んで調べる △調べたことを見直す △打ちあいを生かして調べ直す	さらに新しい課題を見つける △結果に納得が得られて調べる 自分なりにどうしたらいいか工夫して追究する
共に学びをつなげる力	相手の発言をよく聞く スタート・ゴール・ゴールと進んでいく 協力する	友達の考えにつけかえる 理由をはきりせて言う 互いの考えを認め合う 自分の考えをもつ	考えをまとめる 今の考えより、さらによ、考えにのり話し合う
目標をもつやりぬく力	目標をたてる	← 1つ1つやり切る ← 最後までやり切る(自分の決めたことはやりぬく) どうやったら達成できるかを見通しをもつ	目標がどこまで達成できているか自分で振り返る 新しい目標をたてる 自分から進んで行動し見直しをもつ どう目標を達成できるか考える
学びへの自信	学びの振り返りを書く	苦手なことチャレンジする 自分の得意、苦手が分かって努力する 学びを次に生かす	新しいものを創造する 自分の成長が分かる お前目標をもつ(さらに上へ)レベルアップ

目指すべき学びの姿を示し学級に掲示している「学びの姿ルーブリック」を活動後に見直し改善したもの

目標をもつやりぬく力	レベル2	「山崎島」ではカマクラ(カマクラのたも)が最中できなかったけれどどうすればいいのか見通しをもつことにより成功できたから
------------	------	---

共に学びをつなげる力	レベル3	算数の授業ではグループで話し合いさらにより考えになるようにしている。
------------	------	------------------------------------

5つの力の相乗効果について、児童の感想

- ・「学びへの自信」については、目標をもって学習に取り組むことで、「目標をもってやりぬく力」が高まり、目標がどこまで達成できているかを自分や友達と振り返ることができるようになってきています。
- ・総合的な学習の時間での学習では、新たな課題を見つけ、それを追及しようとする活動を通して、新たな課題を見つけたり、その課題に自分だったらどう考えるかということが考えたりすることができるようになってきました。
- ・5つの力の振り返りを通して、以前はレベル3だったものが、レベル2になることに気がきました。振り返りをしたら、自分たちのレベルが上がっていているように感じています。

例) 養殖場見学 (課) 「課題を見つけ追究する」 (活) 「活用できる知識・技能」

「どんな良さがあるから、三瓶山で養殖業を行うのですか。」

1学期の総合的な学習の時間で「庄原市の農業」について、朝晩の温暖さが大きいことから農作物の育ちが良いなどの産地のメリットに関する知識を活用して、三瓶での養殖業との関係を、養殖業の方に質問をしている。

(2) 体験活動で得た「学びへの自信」の広がり（他教科や学校生活等）

体験活動の振り返りに活用した「ゆめかなシート」は、ポートフォリオとして蓄積しておき、体験活動後に振り返ることができるようにしました。

夢はかなえるもの！夢はかなえてよし！

ゆめかな学習 10月1日

SYP～三瓶ゆめかなプロジェクト～
SYP（三瓶ゆめかなプロジェクト）後の自分の姿を「学びの振り返りシート」で振り返ろう。

5つの力	今の自分のレベル	具体的な姿
活用できる知識・技能	レベル2	国語の授業で習ったことを総合のポスター作りで活かせているから
課題を見つけ追究する力	レベル2	算数の問題が出た時その時のめあてを自分で予想したり、自分の考えの他にほかの考えを考えているから
共に学びをつなげる力	レベル3	算数のグループ学習でみんなの意見を合わせてホワイトボードにまとめられているから
目標をもってやりぬく力	レベル2	自分が立てた目標を達成するために何をすればいいか考えているから
学びへの自信	レベル2	国語や算数で前の授業とつなげてその日の問題を考えられるから

国語科の授業で習った見出しの付け方や、表や図の活用等、内容がよりよく伝わるような工夫を総合的な学習の時間のポスター作りに活用できた。



夢はかなえるもの！夢はかなえてよし！

ゆめかな学習 10月1日

SYP～三瓶ゆめかなプロジェクト～
SYP（三瓶ゆめかなプロジェクト）後の自分の姿を「学びの振り返りシート」で振り返ろう。

5つの力	今の自分のレベル	具体的な姿
活用できる知識・技能	レベル2	ゆめかな学習で学んだ資料の使い方を国語で生かしている。
課題を見つけ追究する力	レベル2	理科の授業ではどのようしたら解決することができるのか見通しがもっている。
共に学びをつなげる力	レベル3	算数の授業ではグループで話し合いさらにより考えられるようにしている。
目標をもってやりぬく力	レベル3	ゆめかな学習では目標をこえようと、さらに新しい目標をたてることかできている。
学びへの自信	レベル3	外国語では自分がどのよう英語を使えるようになったかなど、自分の成長が分かる。



友達のことを積極的に聞こうとする姿が外国語活動を中心に見られるようになった。

外国語では自分がどのような英語を使えるようになったかなど、自分の成長が分かるから、学びへの自信がもてるようになった。

活動後に書いた、自分のクラスについての新しい発見。学級・学年としても成長を感じることができ、授業などでの話し合い活動でも進んで参加する姿が多く見られるようになった。

5年2組

《新しく発見したいところ》

- 失敗しても、たれかを責めるのではなくみんなで解決しようと前向きに考えることができる。
- 友達の良いところや、頑張っていることを見つけ全員で喜んだり、ほめたりすることができる。
- ゆめかなシートを書くことを通して自分の活動を振り返りまとめる力がついた。



Ⅲ 意欲・態度

協調性・柔軟性

尾道市立美木原小学校 校長：杉原 しのぶ【施設泊】県立福山少年自然の家

新たな人間関係を構築していく体験活動

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

美木原小学校は、平成 29 年度に 4 つの小学校が統合してできた学校です。学校が統合したことで、新たに人間関係を構築していくことが必要です。そのために、友達の良さを積極的に見つけていくようにさせています。

「山・海・島」体験活動では、集団での生活の中で、児童が元の学校での人間関係を引きずっている自分に気付き、仲間内の狭い人間関係の殻を破り、関わり方の少なかった友達の新たな一面を見つけ、児童が人間関係を広げていくことができる児童を目指しました。

2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 目標

「T r y ! ～やってみよう～」

- 学校や家庭、普段の学校では体験できないことを積極的に体験する。
- 新たな友達の一面を見つけることで、新たな人間関係を構築する。

(2) 3泊4日の主な内容

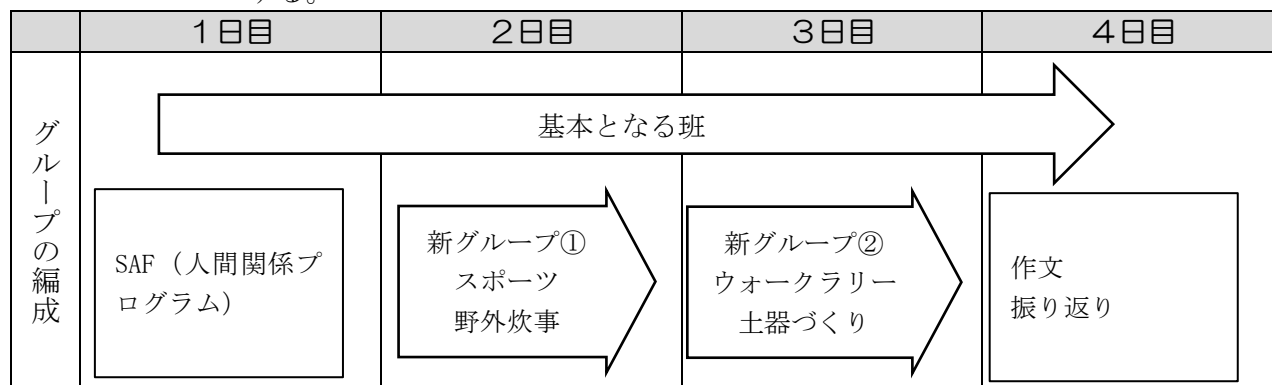
	午前	午後	夜
1日目	入所式・オリエンテーション	SAF (人間関係づくり)	星空観察
2日目	スポーツ	野外炊さん	スタンプ練習
3日目	ウォークラリー	土器づくり	キャンプファイヤー
4日目	作文	帰校式	

3 体験活動の指導の工夫

(1) グループづくり

内容：3つのグループ編成を準備

指導の工夫：できるだけ同じ人と同じ班にならないようにし、多くの友人とかかわるようにする。



- 1日目に、人間関係プログラムを配置し、励ましたり、励まされたりする体験や仲間とともに失敗を克服する体験等を通して、協働することの意味を具体的に学ぶ。

- 2・3日目に、意図的に前日と異なるグループを編成し、新たなメンバーで体験活動を行う。
- 4日目に、これまで、それぞれのメンバーで行った体験活動を振り返り、自分が他者とどのように関わってきたかという観点から、自分が頑張ったこと、足りなかったこと、できたこと、できなかったことを振り返る。

(2) 誰もが参加できる体験活動の選択

○体育的体験活動

内容：SAF（人間関係づくり）、スポーツ（カローリング）、ウォークラリー

指導の工夫：○体を動かすことが得意・不得意、技能の優劣、性別、体格、運動能力などに関わらず、自己の力を発揮できる場面がどの児童にも均等にあり、一人一人が役割を持って参加意識が生まれるような活動を選択する。

○各ゲーム・活動ごとに、作戦タイムを設け、グループの意思決定に全ての児童が参画できるようにする。

(例) カローリング

カローリングとは、特別な技術や力を必要とせず、簡単なルールと使いやすい用具を用いて、子供から高齢者、性別、体格、運動能力、障害の有無を問わず、誰もが参加し楽しめるスポーツである。

作戦タイムを活用し、全員で分担して様々な角度からジェットローラの配置を正確に把握し、ジェットローラを投げるコースや、どのジェットローラをどの順番ではじき出すか等を相談して決める。



○文化的体験活動

内容：星空観察、野外炊飯、土器づくり、キャンプファイヤー

指導の工夫：○結果の優劣を競うのではなく、活動のプロセスを大切にし、相互によさを認め合える活動を選択する。

(例) 土器づくり

○体験活動の目標を説明し、講師から一方的に情報を与えるだけの土器づくりにならないよう考える場面を設定するとともに、全員が参加できるように依頼する。

○現物の土器から、土器づくりの手順や作成方法、どのような道具を使っていたかを想像し、先人の知恵に気付かせる場面を設定する。

○郷土資料館から専門家を派遣してもらい、弥生土器の断面や焼き跡などを観察することを通して、弥生人たちが、どんな工夫をして土器を作成していたのか推測することで、弥生人たちの持っていた知恵・技術に挑戦する。



(3) 自分が設定した目標を、共通の観点から振り返る

内容：事前にそれぞれの体験活動の目標を設定させる。

指導の工夫：○各体験活動の直前に、事前に設定した目標を見直して、修正させる。

○各体験活動の終了ごとに、振り返りの時間を設定する。

振り返りの3つの観点を設定

- ・一生懸命（最後までやり切ることができたか）
- ・安全（危険の回避）
- ・フェア（自分のためにもなり、みんなのためにもなるよう行動できたか、周囲への配慮、他者を肯定的に受容したか）

しおりの内容

《3日目：土器作り体験》目標

事前：教えてくださる方の話をよく聞いて、昔の人と同じような土器を完成させる。

当日：困っている友達がいたら、声をかけるようにして、全員が成功できるようにする。

○目標を達成できましたか？

学習のまとめ（感想・気づき・学んだこと等）

すぐにできるだろうと思っていたけれど、昔の人と同じように空気を入れないようにしたら、うすくなりすぎて形が悪くなり、自分が思うようにはなかなかできませんでした。館長さんが「何度でもやり直すことができる材料だから、失敗しても大丈夫。やり直したぶん、技術があがるから。」と言われました。同じように困っている友達にも、教えてもらったことを伝えながら仕上げていきました。



「〇〇君、すごい集中しとる！」
「〇〇君のやつ、すごい！」

「〇〇君の土器は芸術品じゃあ。」
「〇〇さんの土器はかわいいね。」

「えっ、見せて見せて！」
「ほんまじゃ、すごい！！ 真似しよう！」



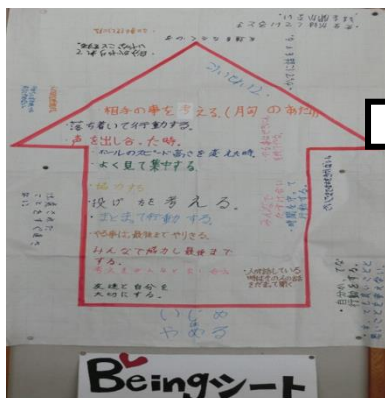
粘土で細長い形を作って積み上げていく方法をとることで、土器と同じ形が作られていくことを、実際に作りながら理解していきました。造形が苦手な子供もいましたが、作っていく内に、個性豊かな作品が出来上がりはじめました。お互いの作品を見合い、ほめ合う言葉もあちらこちらから聞こえてきました。お互いを認め合う、新たなその子の良さが発見できる活動になりました。

できあがった子から、自然と観賞会になりそれぞれできあがった作品の良さを確かめ合っていました。「〇〇君の芸術作品じゃ！」「プロみたいに仕上がとる！」「〇〇ちゃんのかわいいね。」それぞれぐるっと見て回る姿はとても楽しそうでした。

(4) 事後指導

音楽コンクールに向けて、また、音楽コンクールが終わった後にも、Being シートに書き加えを行い、常に見えるところへ貼って意識できるようにしている。

「笑顔で楽しむ」、「最後まであきらめない」、「相手のことを思う」、「先生に言われなくても自分で行動する」などを追記した。



IV 價值觀・倫理觀

自らへの自信

大竹市立大竹小学校 校長：小西 啓二【施設泊】山口県立由宇少年自然の家

自己有用感を高める自発的、自治的な体験活動

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

大竹小学校の5年生は、年度当初より「元気・本気・根気」をキーワードに、学校生活を送っています。「樂をしたい。」「一人ぐらいがんばらなくてもいいや。」という甘えの心にストップをかけて、困難なことであっても、何とか乗り越えられるように一人一人が考えたり、友達と力を合わせながらやり切ろうとしたりする児童になってほしいと考えました。

3泊4日の野外活動では、集団生活を通して児童が主体的に行動する場面や困難な状況でも自分たちで解決していく場面が多く設定できます。児童の課題である自己有用感を「みんなの役に立った。」「自分のしたことがみんなに喜んでもらえた。」と捉え、それらの思いをさらに高めるチャンスとして活動内容を考え、場の設定を工夫して取り組みました。

2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 目標

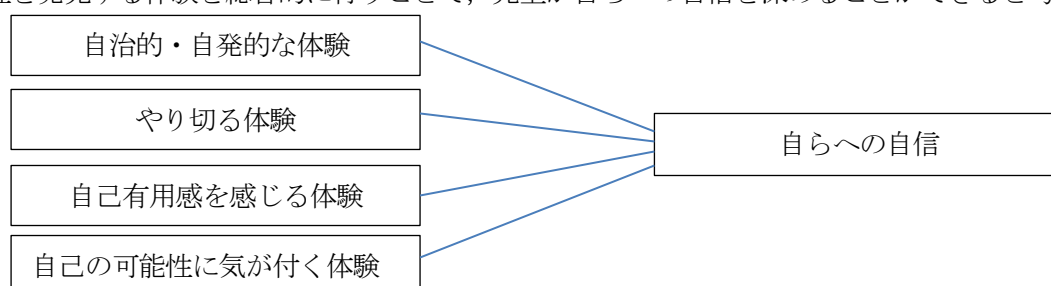
- 自然に親しみ、人とふれあうことの喜びを味わう。
- 集団生活を通して、規律・責任・協力の大切さを体験する。
- 3泊4日を児童が中心となって企画・運営する協同生活を通して、自分を見つめ直したり、仲間の良さを実感したりする。

(2) 3泊4日の主な内容

	午前		午後	夜
1日目			オリエンテーション	スタンプ練習
2日目	清掃活動	集団行動	・A班 まが玉作り ・B班 ネイチャークラフト ・野外炊事	星空観察
3日目	清掃活動	ウォークラリー	・A班 ネイチャークラフト ・B班 まが玉作り (2日目のA班, B班入れ替え) ・AFPY(仲間づくり活動) ・西日本豪雨災害被災地へ送るぞうきん作り	キャンドルサービス
4日目	清掃活動	ふりかえり活動	解散式	

3 体験活動の指導の工夫

3泊4日の体験活動の中で、自治的・自発的な体験、自己有用感を実感する体験、やり切る体験、自己の可能性を発見する体験を総合的に行うことで、児童が自らへの自信を深めることができると考えました。



(1) 自治的・自発的体験

○ 実行委員会の設置

構成：各クラスから選出した6名の代表者（計18名）

ねらい：児童自身が計画の一部を自分たちで企画・運営することで、自治意識を高める。

活動内容：事前の実行委員会の開催

体験活動中の班長会の運営

指導の工夫：体験活動の活動内容を企画させる。

企画したことを持ち帰り、各学級で説明させる。

体験活動の説明・進行を行わせる。

体験活動中に、毎晩、班長会を開催させる。

○ 生じる可能性のある問題を予想させ、全員でやり切るための対応策を考えさせる。

ねらい：問題に直面しても、自分たちで解決しようとする態度を養う。

活動内容：全ての体験活動を行う前に、話し合いの場面を持たせる。

(2) やり切る体験

○ 集団行動を核とするプログラム

ねらい：最後まで全力でやり切る体験をさせることで、自らへの自信を深め、その後の体験活動も、最後まで全力でやり切ろうとする態度を養う。

活動内容：120人全員による集団行動

指導の工夫：6人グループ、60人グループ、120人全員の3つのグループに分かれて練習させる。

すばやく合わせた行動をとるために、できるだけ大きな声を出して意思表示させる。

仲間への励ましの声掛け、あきらめずにやり通すための声掛けを積極的にさせる。

(3) 自己有用感を感じる体験

○ 肯定的評価を相互に実施する

ねらい：自己有用感を、他の体験活動につなげるため、お互いを肯定的に評価し合う。

活動内容：各体験活動終了後に互いを肯定的に評価する場面の設定

指導の工夫：次の視点に基づいた評価をさせる。

・自分が、他者のために行動できているか

・仲間が、他者のために行動できているか

(4) 自己の可能性に気が付く

○ 集団に貢献するために自分に何ができるかを分析する。

ねらい：集団に貢献するために、自分ができること、実現は難しいが挑戦することを分析・整理して、自分が集団に貢献できる行動に結びつける。

活動内容：各自が4日間を振り返る活動の設定

指導の工夫：「集団をよくするための重要性」「自分が実現できる可能性」という2つの指標を用いた評価シートに、4日間の行動を記入し、自己の行動を分析する。

(5) 自発的、自治的な活動への意欲を継続、定着させる場面の設定（総合的な学習の時間との関連）

ねらい：自発的、自治的な活動への意欲を継続、定着させる。

活動内容①：豪雨被災地への支援

指導の工夫：その際に、自校と相手校の双方の気持ちが届くようにビデオレターを作成して、送り合うことで「役に立った」「喜んでもらっている」という実感を持たせる。

活動内容②：高齢者施設のお年寄りとの交流と発表会への招待

指導の工夫：高齢者の方に「行ってみたい」「見てみたい」と思ってもらえるよう自分の気持ちを招待状に書かせる。

4 取組による成果

(1) 自己への自信の深まり

【児童の感想】

- ・大きい声であいさつをしたり，お礼がはっきり言えるようになり，あいさつの自信がついた。
- ・友達に進んで声をかけることができるようになった。
- ・自分の意見を班のみんなに言い，班の人の意見を聞いてまとめることができるようになった。
- ・班で協力するなど，助け合って最後までやり切ることができるようになった。

集団行動を核とするプログラム，班やグループでの問題解決の場を設定したことで，児童は困難な状況を仲間と共に乗り越えた達成感を味わうとともに，自己の課題を克服し，自信を深めることができました。



(2) 自治的・自発的な行動への意欲

○ 自治的・自発的な環境整備

体験活動後は，児童が過ごす教室や校舎等を自分たちで快適な環境にしようと，自分たちでチェックポイントが綺麗になったか声をかけ合ったり，掃除時間以外でも，一人一人が主体的に教室内や自分の机の周辺の整理整頓を積極的にしたりするようになりました。

大竹小学校 再スタートワーク集計							大竹小学校 8月スタートワーク集計									
	指導内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年		指導内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特交
☆	児童の実態を踏まえて、適切な座席の配置を考えている。	○	◎	◎	◎	◎	◎	☆	児童の実態を踏まえて、適切な座席の配置を考えている。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
①	返事…健康観察や授業時「はい」気持ちのよい返事ができる。	◎	○	○	△	△	○	①	返事…健康観察や授業時「はい」気持ちのよい返事ができる。	○	◎	○	△	○	○	◎
②	挨拶…3つの声の確認 大人には立ち止まってあいさつができる。	△	△	○	×	×	○	②	挨拶…3つの声の確認 大人には立ち止まってあいさつができる。	△	△	×	×	○	△	△
③	言葉風い…キラキラ言葉 先生には丁寧な声をつかっている。	○	△	○	×	○	◎	③	言葉風い…キラキラ言葉 先生には丁寧な声をつかっている。	○	○	○	△	○	◎	△
④	姿勢…ペンペンゲーム 墨袋…両し手にあそびおへそを隠している。	○	○	◎	△	○	◎	④	姿勢…ペンペンゲーム 墨袋…両し手にあそびおへそを隠している。	○	○	◎	○	○	◎	○
⑤	だまりんこタイム 掃除を学年×5分作る事ができる。	○	○	○	○	◎	◎	⑤	だまりんこタイム 掃除を学年×5分作る事ができる。	○	○	○	○	◎	◎	△
⑥	給食指導 学年で確認した準備片付けの形態と「はあままで」「いただきます」ができる。	◎	◎	◎	○	○	◎	⑥	給食指導 学年で確認した準備片付けの形態と「はあままで」「いただきます」ができる。	○	○	◎	○	○	◎	○
⑦	最新の歌い方【下校前に新曲】…かかどきをそろえる。上の歌…上↑の歌。下の歌…下↓の歌。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	⑦	最新の歌い方【下校前に新曲】…かかどきをそろえる。上の歌…上↑の歌。下の歌…下↓の歌。	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑧	だまりんこ…掃除を徹底して掃除ができる。(全職員で担当の掃除分母増設活動)	△	△	○	×	○	◎	⑧	だまりんこ…掃除を徹底して掃除ができる。(全職員で担当の掃除分母増設活動)	△	○	○	△	○	◎	△
⑨	ロッカーの歌い方…学年で決めた方法で整理されている。	○	○	◎	○	◎	◎	⑨	ロッカーの歌い方…学年で決めた方法で整理されている。	◎	○	◎	△	○	◎	◎
⑩	お遊具箱…最新の片身がそろい。下敷きを使って学習している。	○	○	◎	△	◎	◎	⑩	お遊具箱…最新の片身がそろい。下敷きを使って学習している。	◎	○	◎	○	◎	◎	◎

- ① 返事…健康観察や授業時 「はい。」気持ちのよい返事ができる。
- ② 挨拶…3つの声の確認 大人には立ち止まってあいさつができる。

大竹小学校では，学習規律が見える化して，全教職員で指導をしています。4月と9月の自己評価を比べると，「気持ちの良い返事ができる」「人には止まって挨拶ができる」という項目が，90%以上になり，全ての項目が，90%以上の「○」となりました。

(3) 自己有用感の高まり

【児童の感想】

- ・自分たちがしたこと、あんなに喜んでもらえるとは思わなかった。人とつながれた気がした。
- ・友達に「それいいね。」と言ってもらえたことで、自信をもって活動することができた。やり切った時、自分の考えが役に立ったことも合わせて2倍うれしかった。
- ・発表会におじいちゃんたちが来てくれてうれしかった。これからも大竹のお年寄りが笑顔になることを考え、実行していきたい。

活動後に相互評価の場を設定することで、他者のために動けた自分や友達のよさに気づき、その価値を共有することで個や学年全体の自己有用感の高まりを感じることができました。また、総合的な学習の時間の学習「西日本豪雨災害」や「高齢者の方との交流」を野外活動や事後の学習に関連付



けることで、「自分たちにできることをしたい」「何ができるか考えてみたい」という児童の思いを形にすることができました。それが「みんなの役に立った」「喜んでもらった」という自己有用感の高まりにつながり、次の活動へのエネルギーになっています。

「みんなで伸びる」

二〇一八年の夏休み
家族とはなれ

仲間と過ごした三泊四日の野外活動

それは、今までの自分を見つめ直し

そして、これからの自分をみすえた三泊四日

集団行動から始まった野外活動

大きな声を出すことが恥ずかしい

めんどろなことは苦手だから

一人くらい出さなくてもわからない

何度も続くやり直しの連続で

あきらめかけたその時に

友達の一生懸命な姿を見て勇気がわいた

ぼくにもできる

わたしにもできる

もつとできる

あと少し、みんなと一緒になら

まだ、がんばれる

全員の心が一つになった時

自分でも信じられないくらい

大きな声が出せた

そして学んだ三つのこと

大きな声を出すこと

それは自分の気持ちを伝えること

機敏に動くこと

それは時間を大切にすること

周りに合わせることに

それは互いの気持ちを思いやること



野外炊事 キャンドルサービス
思いっきり笑った楽しいこと
苦しくて涙を流したつらいこと
仲間を信じ
相手を思いやり
共に助け合い
どんなこともやり切ることができた
いつもしているあいさつや返事を
伝える声でしっかりしていこう
どんな時にも進んで行動し
全力で取り組んでいこう
どんなことも最後まであきらめず
自分たちの力でやり切っていこう
わたしたちは
友達
家族
先生
みんなに支えられている
今まで関わってきた全ての人に感謝したい
たくさん経験の積み重ね
前より強くなった自分がある
これからは頼ってもらえる自分になろう
そしてだれかのために
自信をもって
進んで行動していこう



郷土を愛する心

江田島市立江田島小学校 校長：大松 恭宏【施設泊】 国立江田島青少年交流の家

「里海」の持つ価値に気づく体験活動

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

江田島小学校の第5学年は、江田島の良さが、里海であることが分かり、それを誇りに思い、受け継いでいこうとする児童を育てたいと考えています。そのことに気づかせるために、3泊4日「山・海・島」体験活動の中では、「ふるさと江田島で受け継いでいくべきものは何か」と課題を設定し、それを解決していく活動を行いました。

江田島小学校では、ふるさと学習の年間カリキュラムと関連させて、「ふるさと江田島を愛し、世界に羽ばたく、夢ある江田島を創造しようとする意欲をもつ」児童の育成をねらいとして、「ふるさと学習」カリキュラムを、全学年で作成しています。そして、学校として育てたい資質・能力の「課題発見・解決力」、「思考力・表現力」、「主体性」、「協働する力」の4項目を、低・中・高学年ごとに、段階を整理して、児童に意識をさせて取り組むことで、目指す児童の姿に近づけようとしています。

学年別体験活動計画案「江田島のよさを見つける『ふるさと学習』6年間のカリキュラム」

学年	1学期	2学期	3学期
1	学校探検。	生き物と仲良し「海探検」。 秋を見つけに「町探検」。	冬を探して「北風探検」。 昔遊びを地域の方から習う。
2	「町探検」町のよさを伝え合う。	もっと行きたい「町探検」。 町のステキを伝え合う。	感謝の気持ちを伝える。
3	学校の前の江田島湾に住む海の生き物を調べる。	お店の人に「インタビュー」。 農家の様子や特産物について調べる。	町の昔の暮らしを調べる。
4	点字・手話などコミュニケーションをとる方法について調べ、自分達にできることを考える。	「特別養護老人ホーム」訪問、交流。	自分達の成長を見つめ、これまで支えてくださった方々に感謝の気持ちを伝える。
5	地域の豊かな自然(海)について知る。 「マリンアドベンチャー」 「山・海・島」体験活動(野活)	江田島の水産について学んだこと、調べたことを発表する。	自分や友達の成長に気付き、自分たちにできることを実践する。
6	地域の宝を見つける。 見つけた宝を整理し、江小まつりで伝えたいことを吟味する。	地域の人に、「インタビュー」。 インタビューしたことをもとに、江小まつりでの発表を構成する。	地域の宝を江小まつりで伝える。

6年間で育てたい資質・能力

学年	課題発見・解決力	思考力・表現力	主体性	協働する力
低	活動のよさや大切さに気づき、	事柄の順序を考え、	進んで～しようとする。	互いの話を聞きながら、仲良く～している。
中	疑問や驚きを基に、	必要な情報を集め、比較・分類し、	気づいたことに対し、進んで～しようとする。	互いの話に関心を持ち、力を合わせて～している。
高	価値ある課題を発見し、	情報と情報とを関係付けながら、	自ら～を進め、評価して、新たな学習につなげている。	互いに尊重し合い、自分の役割を自覚し、協力して～している。

2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 目標

身の回りにある豊かな自然のよさに気づき、その自然を生かしてふるさとをよりよく発展させようとする意欲を育て、自覚的に地域や学級に関わる思いを高めるための目標を、次のように設定した。

- 自分の力で、自分でやりきる。(仲間と共に)
- 自ら行動し、失敗を次に活かす。
- 「自然・人・もの・こと」とかかわり、郷土愛を育む

(2) 3泊4日の主な内容

	午前	午後	夜
1日目	出発式 入所式	アイスブレイク (人間関係づくり)	インドアクッブ
2日目	カッター研修	カプラ	ウミホテル観察
3日目	オリエンテーリング	江田島焼(陶芸)	キャンプファイヤー
4日目	清掃活動 野外活動の振り返り 家族への手紙	昼食 退所式 解散式	

3 体験活動の指導の工夫

江田島の自然・里海の素晴らしさや魅力と触れ合う3泊4日の体験活動			
	○江田島の自然を活用したカッター研修	○ウミホテル採集と観察	○牡蠣殻を釉薬に活用している江田島焼の陶芸体験
ねらい	○江田島の海の特徴を活用しているカッター研修をとおして、江田島の地形を有効活用していることに気付く。	○ウミホテルの採集と観察を通して、水がきれいで、砂浜がある環境だからこそ、生息できることが分かる。	○ふるさと江田島の良さを発信している方の実践を学び、自分にできることを実践することの大切さが分かる。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カッター研修の概要説明 ・かけ声、集団行動の練習 ・江田島湾の沖でのカッター ・江田島の自然を見つめ直す 	<ul style="list-style-type: none"> ・さとうみ科学館西原館長によるウミホテル採集方法の説明 ・ウミホテル採集器の作成 ・ウミホテルのえさの準備 ・ウミホテルの採集と観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・牡蠣殻を活用するきっかけ、メリットについての説明 ・牡蠣殻をすりつぶして釉薬に混ぜる方法の紹介 ・土ごね ・成型
指導のポイントや工夫	<p>○カッター研修中の洋上での研修中に、江田島の景色を見て感想を言い合う時間を設定する。</p> <p>○カッター研修で海に出ている時の休憩の時間に、海から見た江田島の景色についての写真を撮っておく。</p> <p>○振り返りでは、カッターで友達と協働したことの良さに加えて、山と海の自然環境を有効活用していることに気づかせるために、カキいかだのすぐそばを通った時のことを想起させ、江田島でカキ養殖が盛んな理由と地形との関係を考えさせる。</p>	<p>○ウミホテルの昼間の生態についての説明とエサの説明を関連させて、ウミホテルが生きていくための好条件がそろっていることに気づかせる。</p> <p>○生態系の循環に役立っている生き物であることを理解させるために、ウミホテルが生息していることによるメリットを考えさせる。</p> <p>○児童から出てきた疑問をしおりに書かせておき、活動を通じた変化が分かるようにしておく。</p> <p>○人の手が入っても、豊かな環境が残されていることに疑問を持っている児童の考えを取り上げ、課題解決のヒントとする。</p>	<p>○廃棄されることの多い牡蠣殻を有効活用して、それを特徴として江田島から発信している実践者の発想に気づかせる。</p> <p>○牡蠣殻を釉薬にしてみようと考えたきっかけを話してもらおうよう、講師に依頼する。</p> <p>○牡蠣殻を使うことのメリットをまとめさせ、物を循環させていることを理解させる。</p>



4 取組による成果

(1) ふるさと江田島で受け継いでいくべきものを考え、「里海」の良さの理解が深まった児童の姿

	気付き	児童の感想
① 里海の豊かさ	○昼の海、夜の海の様子の違いに気づき、見えない海の中に生息する生き物に関心を持つようになってきた。学校の水槽で泳ぐ魚の姿を観察したり、江田島の海に住む生き物のスケッチをしたりなど、海のもつ偉大なエネルギーや魅力に心を奪われていく姿が多く見られるようになった。	<p><u>児童の感想</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動に行く前にウミホテルのことは聞いて知っていました。だけど、実際に自分でつかまえてみて本当にきれいだなと思いました。あんな生き物が江田島の海にいるとは驚きでした。「すごい。すごい。」と心の中で叫んでいました。 ・今まで当たり前のように海を見て暮らしていましたが、カッター研修をしたりウミホテルの観察をしたりして、あらためて江田島は豊かな海に囲まれているのだなと実感しました。今回の「山・海・島」体験活動では、その海を、使った活動ばかりで、自分たちが知らない体験ももっとやってみたいと思います。
② 海を活用した誇り	○牡蠣殻に目を向け陶芸に活用し「江田島焼き」と名づけることが、ふるさと江田島を有名にし、誇らしく思える自分達がいることに感動している姿が見られた。	<p><u>児童の感想</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん手に入るものを、捨てるのではなく、活用しようという考え方が面白いです。きれいな色の器ができて、思い出に残るなあと思いました。 ・牡蠣殻を有効活用した「江田島焼き」を体験して、江田島を有名にしている方がおられることを知りました。この体験活動で行ったウミホテルの観察の西原館長さんも、カッターの指導をされる江田島青少年交流の家の指導員さんも、江田島でしかできない取組を、私たちに教えてくださっています。この他にも江田島の海の良さを活用している人について、学んでみたいと思いました。
③ 里海を守る活動の必要性	○カッター研修で海に出た先から見た「江田島の地形」。そこから発見した「川から海への水の循環」。1学期に行ったごみ拾いや草取りのボランティア活動が、海の水を美しく保つために役立ったことにも気づいていった。	<p><u>児童の感想</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・江田島の自然はすごく貴重だということがわかりました。海がきれいなだけでは牡蠣の養殖もできないし、ウミホテルも生きていけないと知ったからです。波が穏やかで栄養がある海だからこそ特産の牡蠣もつくれます。ウミホテルも生息します。そんな江田島の自然をこれからも守っていきたいです。 ・カッター艇から見た江田島の山々、真っ暗な中で見た青くきれいに光るウミホテルが印象に残っています。歩きながら見る山と海から眺める山は全然違って見えました。山と山の間に谷が見えます。周りを海に囲まれている島がとってもきれいでした。私たちは本当に多くの自然に守られて生活しているんだなと思いました。私たちが、ゴミ拾いをしたこともこの自然を守るためには必要なことだと感じました。

「ふるさと江田島で受け継いでいくべきものは、“さとうみ”なんだ。」

○海は、自然のまま残っているのではなくて、これまでの人達が、いろんな活用をするために、人の手が入っているんだ。

○これまでの取組はどんなものがあるのかな。もっと調べたいな。

(2) 「山・海・島」体験活動を生かした事後の取組で、さらに里海の理解を深める児童の姿

「山・海・島」体験活動で、「ふるさと江田島で受け継いでいくべきものは何か」という課題に“さとうみ”であることが分かった児童が、さらに追究していくために、江田島市教育委員会主催の「マリンアドベンチャー」を行い、事後に江田島の良さを伝える発表会を行いました。

- 取組** ○「さとうみ海洋学習」マリンアドベンチャー
○江田島じまん広げ隊(地域や4年生へ伝える発表



指導のポイントと工夫

- ・実際に里海の生き物に触れながら里海の保全・再生要素に関する「物質循環」「生態系」「ふれあい」、実践の「主体」や「場」といった5つの活動要素を意識させる。
- ・海的环境を生かして、魚の稚魚を放流していることについても話してもらい、自然を守るために積極的に人々が関わろうとしていることを理解させ、ふるさとの思いに気づかせる。
- ・3泊4日のしおりを見させ、活動をする前と後とを比較し、自らの成長に気づき、認めていく。

児童の姿

- 海という自然を活用する方法はないかと思案しながら、体験後も自らパンフレットを集めたり、インターネットで調べたりする姿が生まれてきた。
- 江田島の活性化に、この「海」を利用できないかと考えるようになってきた。

児童の感想

【①自分たちにできること】

- 野外活動をして今思っているのは、江田島の海をきれいにしていこうとみんなに呼びかけることと、江田島の海の自慢をたくさんの人に広げていくことです。海が汚れたら江田島の海に住む生き物が生きていけません。そのために何ができるのか考えてみたいです。江田島の自慢は、まず4年生や学校のみんなにしていきたいです。そして、参観日や学習発表会、江小まつりで家の人や地域の方々にも自慢を広げていきたいです。

【②次にしていきたいこと】

- ふるさと「江田島」の自慢をもっとみつけないかという思いを、次のステップへとつないでいきたいです。

